

いつ、どこで起こるかわからない災害に備えて今からできることを考える

3.11を前に、ラジコが提供する「防災ラジコファクトブック」

本日3月9日（月）より公開

東日本大震災発生時にもっとも役に立ったのはラジオ、約6割が自宅外にいたなど
防災・減災について学びになるデータが盛りだくさん



[\(https://radiko.jp/rg/bousai/factbook/\)](https://radiko.jp/rg/bousai/factbook/)

株式会社 radiko（代表取締役社長：青木 貴博、所在地：東京都中央区）は、いつ、どこで起こるかわからない災害に備えて、今できることを考えていただくきっかけになる「防災ラジコファクトブック」を2020年3月9日（月）より公式サイトにて公開します。

昨今、各自治体が防災ラジオの整備などを進めていますが、2018年度に実施したNHKラジオの実証実験においても、北海道胆振東部地震や西日本豪雨などの災害時にスマートフォンでラジオが聴ける『ラジコ』への訪問者数が増加していたことが判明しました。改めて日本が災害大国であることが強く認識され、災害時や防災対策としてのラジオに注目が集まっていることが伺えます。一方で、内閣府の防災白書によると、国民の2人に1人が防災への備えにほとんど取り組んでおらず、具体的なアクションをとれていないという結果を示しています（※）。そこで、ラジコは東日本大震災発生から9年目となる3月11日を前に、防災の自分ごと化を促す第一歩として、身近な存在であるスマートフォンでラジオが聴ける『ラジコ』が防災ツールとして有用であることを認識してもらうべく「防災ラジコファクトブック」を作成致しました。

防災の第一人者である京都大学名誉教授 河田恵昭（かわた よしあき）氏に監修に入っただき、災害時のラジオの有用性や情報収集のポイントをまとめています。また、TBSラジオやニッポン放送などラジオ局の方にも取材にご協力いただき、メディア視点での災害時におけるラジオの役割や強み、今後のラジオの展望についてのインタビューを掲載。東日本大震災発生時にもっとも役に立ったのはラジオ、約6割が自宅外にいたなど防災・減災について学びになるデータが多く盛り込まれ、いつ、どこで起こるかわからない災害に備えて、今できることは何なのかを考えるきっかけとなるファクトブックになっています。

防災ラジコファクトブックサマリー

ポイント① 「スマホでラジオの有用性」がわかる

03 「スマホでラジオ」の有用性

調査結果の概要は、以下の通りです。詳細は2つの図をご覧ください。

1: 最大で何分程度ラジオを聴くか

最大で何分程度ラジオを聴くかという質問に対して、聴き手は平均約40分程度聴くという回答が最も多かった。聴き手は平均約40分程度聴くという回答が最も多かった。

2: 聴き手はラジオを聴く際にどのような行動をするか

聴き手はラジオを聴く際にどのような行動をするかという質問に対して、聴き手は平均約21分程度聴くという回答が最も多かった。聴き手は平均約21分程度聴くという回答が最も多かった。

▶調査結果から、ラジオは他のスマホアプリと比べて「バッテリー」と「データ通信量」の消費が少なく、災害時の情報源として適していることが伺えました。

ポイント② 「ラジオ制作現場の声」がわかる

番組制作者に聞く①

ラジオはなぜ災害時に必要なのか？ 災害時の情報源の重要性についてお話ししました。

番組制作者に聞く②

災害時のラジオの有用性とこれらについて、制作現場の方からお話ししました。

▶TBS ラジオやニッポン放送などのラジオ局の現場の方の声を掲載。テレビやWEBメディアとの違いやラジオならではのリスナーとの連携による情報発信について制作者の視点から熱く語っていただきました。

ポイント③ 「プロが教える防災時の情報収集のポイント」がわかる

04 専門家の声

災害時に必要な情報収集について、防災の専門家からお話ししました。

必要な情報を正しく取得することで、災害時の被害は小さくできる

河田 恵昭 氏

▶防災・減災研究の第一人者である河田教授に災害時の情報収集についてお話ししました。災害の被害を小さくするために、事前に知っておきたい大切な情報などが記載されています。

▶防災・減災研究の第一人者である河田教授に災害時の情報収集についてお話ししました。災害の被害を小さくするために、事前に知っておきたい大切な情報などが記載されています。

防災ラジコ監修者コメント—河田恵昭氏—

ラジオは災害や感染症拡大など刻々と状況が変化する緊急事態の際に防災アプリとしての威力を発揮します。テレビのように画像が必要ないからであり、電話取材など音声による取材によって、リアルタイムに各地域のニュースとして詳細に伝えることができます。

ぜひこのファクトブックをきっかけに、防災を自分ごと化して考えてみてください。

◆監修者プロフィール

京都大学名誉教授 河田 恵昭 氏

京都大学名誉教授、関西大学社会安全研究センター長・特別任命教授、人と防災未来センター長。東日本大震災復興構想会議委員。災害分野における第一人者として知られ、「減災」「縮災」という言葉を提起。災害が起きることを前提として建物の耐震・防火化から避難訓練、復興準備までをあらかじめ行うべきという文理融合型の防災・減災を主張。学会賞や功労賞の受賞数も多く、国連により 1986 年に創設された防災分野のノーベル賞「SASAKAWA 防災賞」を 2008 年に受賞。

◆ラジコについて（2020 年 3 月現在）

聴取可能局：民放ラジオ 94 局、NHK（ラジオ第 1、NHK-FM）、放送大学

月間ユニークユーザー数：約 750 万人

日間ユニークユーザー数：約 140 万人

プレミアム会員数（有料/放送エリア外聴取）：約 70 万人